

自己評価結果公表シート（令和7年度・2025年度）

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園内研修だけではなく、公開保育のシステムなどを活用し外部からのアドバイス、情報などを取り入れ、保育の見直しや職員の資質向上に努める。
- ・ECEQ®公開保育を実施し、園の保育の現在地を知りながら、子どもの姿や職員間の保育のまなざしや子どもの育ちをみる保育者一人ひとりのまなざしなどを語り合い、意見交換や価値観の共有しながら、質向上や同僚性の醸成に努める。
- ・保育の質を維持しながら、職員のよりよい勤務環境づくりや改善に努める。
- ・子どもの育ちを真ん中とした視点で各行事の見直しやねらい、活動を考えて実施していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育の資向上	ECEQ®公開保育を実施し、コーディネーターの先生方とともに、園内研修を重ね、他園の先生方の視点をいただきながら、自園の保育の振り返りや保育観の共有を図りながら、保育内容及び職員ひとり一人の資質向上につなげていくことができるよう取り組みを実施した。 園内研修だけではなく、新任、キャリアなどの経験年数で集まり振り返りや共有を行う時間をつくり、職員同士が保育観や子どもの育ちなどの意見交換やコミュニケーションを図る機会を多く持つことを努め、お互いの学びを深めあい、チーム力を高めていくように進めた。 外部研修にも参加し、専門的な知識や他園所の保育を学んでいる。
遊びの充実	室内、戸外共に遊びの中から自律的な学びに繋がる経験や体験ができるものを職員間で話し合いを重ね、工夫しながら環境に取り入れている。 （集団遊び・カードゲーム・ボードゲーム・水つなぎ遊び） 保育環境評価スケール（ECERS）を参考に子どもがより生活や遊びが充実していくことができるようにしている。 自園の保育活動や環境づくりをより豊かなものにしていけるように、他園に保育見学に行く機会を設け、先生方から保育環境や視点などを伺い、研鑽し保育現場に活かせるように努めた。
子育て支援	新たに親子参加でリラックスヨガを不定期で実施した。 近隣の商店と協同で、ソーセージ飾り切りイベントを実施した。
保護者参加イベントの充実	いちご先生やつなガールあそボーイ、りんごパパなどの任意での保護者の保育参加の継続を図りながら、保護者が子どもの日々の姿や園での様子を一緒にたのしみながら園の保育を知ることができるようなイベントや一緒にできる機会を増やしている。
ICT、SNSの活用	Instagramの配信の充実や、専用アプリを通してドキュメンテーションや手紙の配信、各種連絡事項などを活用している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

公開保育を実施し、保育者同士が保育を客観的に見つめ合う機会を設けることで、本園の強みや今後の課題を共有することができた。対話を通して保育の工夫や改善点を見だし、保育の質の向上に向けた具体的な方向性を確認することができた。また、職員一人ひとりが新たな目標や課題意識をもち、より良い保育の実現を目指して主体的に取り組もうとする姿勢が見られた。今後も継続的な振り返りを行いながら、保育の充実を図っていきたい。

他園見学や公開保育への参加を通して、子どもの興味・関心を起点とした環境構成や、一人ひとりの思いや育ちを大切にする保育について学びを深めた。本園の良さや課題を客観的に捉え、職員同士で学びを共有し、行事や日々の保育を子どもの姿から見直す意識が高まり、子ども主体の保育の実現に向けた実践へとつながった。保育者一人ひとりが保育観を深め、日々の保育改善に主体的に取り組む姿勢が育まれた。

今後も子ども主体の保育の充実に向け、学び続ける組織づくりを推進していきたい。

各種研修への参加や母校での発表、研究プロジェクトへの参画など、職員一人ひとりが専門性の向上を目指して意欲的に学ぶ姿が見られた。また、園としても積極的に研修の機会を設け、学びに挑戦できる環境づくりを進めたことで、学びを園内で共有しながら保育の質の向上につなげることができた。職員同士が互いに刺激を受けながら専門性を高め合い、その学びを日々の保育へ還元する意識が高まった。

保護者参加の活動についてもブラッシュアップを図り、行事や保育活動において任意で参加・協力いただける機会を積極的に設けた。保護者が子どもたちの園での姿や育ちを身近に感じられる機会となり、園の教育・保育への理解を深めるとともに、家庭と園が互いに連携しながら子どもの成長を支える意識の醸成につながった。

6. 学校関係者評価

今年度は、「子どもの育ちを真ん中に据えた教育・保育の充実」を目標に、保育の質の向上と職員の専門性の向上に取り組んだ。

公開保育や園内研修では、保育を客観的に振り返り、本園の強みや課題を共有しながら、改善に向けた協議を重ねることができた。職員同士が互いの実践から学び合うことで、保育への視野が広がり、一人ひとりが新たな目標や課題意識をもち、主体的に保育改善へ取り組む姿が見られた。

また、他園への見学・実習や各種研修、研究プロジェクトへの参加、母校での実践発表など、職員が園内外で学びを深める機会を積極的に設けた。園としても学びを支援し、その成果を職員間で共有する体制を整えたことで、専門性の向上だけでなく、学びが日々の保育へ還元される組織づくりにつながった。

保育環境や行事についても、子どもの興味・関心や一人ひとりの思い、育ちを大切にする視点から見直しを進めた。子どもの姿を丁寧に捉え、主体的な遊びや学びが広がる環境づくりに努めることで、教育・保育内容の充実を図ることができた。

さらに、保護者参加の活動についても内容を工夫し、行事や日常の保育に任意で参加・協力いただける機会を充実させた。保護者が園での子どもの姿や保育を身近に感じることで、園の教育方針への理解や信頼が深まり、家庭と園が共に子どもの育ちを支える協働の関係づくりにつながった。

これらの取組を通して、職員一人ひとりが学び続ける姿勢を育み、園全体として保育の質の向上を目指す意識が高まったことは、大きな成果であった。

次年度は、今年度の成果を基盤とし、子ども一人ひとりの興味・関心や思いを大切にした教育・保育をさらに充実させていく。公開保育や園内外の研修、他園との交流を継続しながら、職員同士が対話と振り返りを重ね、学び続ける組織づくりを一層推進していく。また、保護者や地域との連携をさらに深め、子ども・保護者・職員が共に育ち合う幼稚園を目指し、教育・保育の質の向上に継続して取り組んでいく。

今年の取り組みを通して保育者の資質向上はもとより、園全体の質向上につなげることができたと評価している。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。